

学校点描

3年生の教室に待望のエアコン
がつけました。大雨のあとは蒸し
暑い日々が待っています。

《最上中学校》

NO 5 H28. 7. 7

担当：教頭

6月から始まった工事を終え、7月より3年生の各教室にエアコン2基が設置されました。エアコンというとなんだか贅沢に聞こえるように思えますが、本校の校舎は熱がこもる構造となっているのか、夏になると3階は朝から平気で40度近くになります。生徒たちも、生徒総会のたびに、教室のエアコンについて要望を出していました。

そこで、来年度から校舎の大規模改修が本格化する前に、町教育委員会からご尽力いただきエアコンを設置していただいたわけです。その他にも、これまた生徒から要望が高かった体育館の防球ネットが新しいものになりました。放課後の部活動では体育館を使って様々な種目が活動を行います。安全面のためにも、ステージ側と中央にこの防球ネットは必需だったのですが、従来のものは古くなってボールが抜けてしまい防球にならなかったのです。

生徒総会では、トイレの消臭剤やトイレ掃除用道具についても要望がだされました。消臭剤は以前は置いてあったのですが、トイレでいたずらがあったことから撤収されていました。生徒指導主事のY先生を中心に検討し、生徒の要望に応えることになりました。トイレ掃除道具も学校予算から事務の浅沼先生がすぐに対応してくれました。

生徒の要望をしっかりと叶えてあげられたことは、“約束を守る大人”を体現できてよかったです。生徒たちは権利や要望を主張したわけですから、今度は生徒たちが使う側として責任を持つ立場になります。生徒たちから投げられたボールはできるだけ受けて、そのボールを今度は生徒たちに返すことをしたいのです。

三行詩

「今日ね、学級委員に立候補したんだよ。」小学校3年生の長男が真っ先に教えてくれます。ずいぶん思い切ったことをしたもんだと、父であるわたし。「でもね、落ちたんだ。」と長男が楽しみにしていたテレビを見ながら話します。すかさず「挑戦したことがすごいことなんだよ。」と、着替えの途中の手を止めて勇気づけます。横顔からはわかりませんが、やっぱり本人には、「ショックだったんじゃないかなー。」と考えました。こんな時、親はなんて言ってあげたらいいのでしょうか？

2003. (学級だより)

当時、学級委員に立候補した長男も、もうすでに大学生となりました。今は、親元を離れて生活しています。しかし、山形から遠く離れているため、どんな生活をしているのか一切音沙汰がありません。先日、事務の太田先生から「教頭先生の長男さんは、アルバイト毎月どのくらいしていますか？」と尋ねられました。「えーどのくらいだろう？」さっそく、メールで毎月稼いだアルバイト代の平均を教えるように連絡します。メール受信箱を見ると、前回受信したのは5月の連休前でした。

泥棒ですか？

母のツッコミ

ただいまというまでやりなおし

あなたの声

#半音上がってわかる隠し事

♭半音下がってわかる悩み事

母の耳は 絶対音感。

庭野知子 (静岡県)

青木嶺斗 (島根県)

「勝ってこい！」初めて言われた父の言葉
叱るより 褒めたいんだよ 本当は
涙で帰った その夜に
のど元までなら 準備万端
そっと言われた 「おつかれさん」

早川 学（愛知県）

川村恵斗（埼玉県）

どの家庭も、毎日毎日一生懸命子育てしているんですね。この三行詩はそんなことを強く感じさせてくれます。どの家庭にも、親にとって譲れないもの、妥協できないものがあり、その中で子どもは成長していくのです。

先日地区のPTA研修大会が金山町で行われました。本校からも、PTA会長さん、副会長さん、研修部長さん、研修副部長さん、副母親委員長さんから日曜日の休日でしたが都合をつけて参加していただきました。実はその挨拶の中で、M教育事務所のK所長さんが、披露してくれたのが、この三行詩です。

毎年、文部科学省で募集している『楽しい子育て全国キャンペーン～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ』の応募作品です。

テストで良い点取った時。 母は「私の子じゃない！」と笑顔で言う
テストで悪い点取った時。 母は「私の子だ！」と笑顔で言う。
言葉の意味はちがうけど 言葉の愛は同じくらい。

小宮山乃々花（山梨県）

なんだかお堅い文部科学省のイメージですが、ちょっと変わった柔らかな取り組みです。

「実はね、父さんも中学校の時、立候補して落ちたんだ。」と話しました。
長男は、はじめてテレビからこちらに顔を向けます。そして、「どんな気持ちだった？」って尋ねるんです。

「そりゃあ、めっちゃくちゃ悲しかったぞ。」とわたし。

「ふーん。」何かわかったようなわからないような、返事が返ってきましね。

（2003.学級だより）

まっすぐばかりじゃない
わたしの言葉を受け止めてくれる
案外・・・家族は名キャッチャー

大島彩夏（富山県）

「実はね、僕、家の人みんながびっくりするかなーって思って、立候補したんだよ。」
わたしの弱さのあとに来たのは、心の奥に灯ってある、わが子の本音でした。

（2003.学級だより）

今となっては、よい思い出です。さあて、わたしの譲れないこだわりの中で育った長男からの返信メールはいつくるのでしょうか。

----- きりとりせん -----

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp